



(大阪西北部)

兵庫・時友遺跡 ときとも

- 1 所在地 兵庫県尼崎市武庫之荘八丁目
- 2 調査期間 第七次調査 一九九六年(平8)六月~八月
- 3 発掘機関 尼崎市教育委員会
- 4 調査担当者 小林公治・大川勝宏
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、尼崎市の北西端に所在し、旧地名で時友・友行地内に広がっている鎌倉時代の集落跡で、伊丹礫層を基層とする標高約一一

mの台地上に立地し、周辺は宅地化が進んでいる。中世には野間荘の一部であったと考えられている遺跡である。

既往調査は小規模かつ単発的なものが多いため、詳細なデータは少ない。一九七〇年の山陽新幹線建設に

先立つ第一次調査では、今回の調査区のすぐ北側で掘立柱建物・土坑が見つかったているが、集落の全体像は不明なままである。今回の阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う第七次調査では、井戸二基、溝五条、土坑七基、ピット多数が検出されたが、遺構面は伊丹礫層まで削平されており、建物などは確認できなかった。

木簡は二基の井戸から出土している。SE一からは、埋土最下層付近から和泉型瓦器碗、同安窯系青磁碗、平瓦片などに伴って(1)の卒塔婆形木製品が、SE二からは同様に最下層付近から土師器皿、和泉型瓦器碗、漆器碗、曲物、木匙などに伴って(2)の木簡が出土している。いずれも共伴する瓦器碗の編年観から一二世紀後葉から一三世紀初頭頃のものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

SE一

(1) [南無カ]
[] [] [] [] [] [] [] [] [] []

(343)×27×5 061

SE二

(2) [] [] [] [] [] [] [] [] [] []
一日百部 [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

261×44×5 032

(1)(2)いずれも墨痕は消失しており、腐食の差で墨書部分がわずかにレリーフ状に浮き上がって遺存していた。(1)は下端が折損する。

(2)は表面左端が剝離し、「目」の横に穿孔がみられる。「一目」は「百」の可能性も考えられる。

9 関係文献

尼崎市教育委員会『尼崎市内遺跡 復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』（一九九九年）

（大川勝宏）



(1)



(2)

兵庫・明石城武家屋敷跡

あかしじょうぶけやしき

1 所在地 兵庫県明石市東仲ノ町・大明石町

2 調査期間 一九八六年（昭61）三月～一九八八年一〇月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者 岡田章一・長谷川真・村上泰樹・山下史朗・久保弘幸・甲斐昭光

5 遺跡の種類 近世武家屋敷跡

6 遺跡の年代 古墳時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

人丸山に位置する明石城の南側、中堀と外堀に挟まれた空間は、

江戸時代の武家屋敷地帯であり、その名残の短冊型地割りが部分的に現存している。



（明石・須磨）

現在も続けられている教次の発掘調査によって、その実態が次第に判明しつつあるが、山陽電鉄本線連続立体交差事業に伴う調査は、